

資料 3

切れ目のない支援の引継ぎの
仕組みづくりについて

切れ目のない支援の引継ぎの仕組みづくり

～ 情報共有ツールを活用した仕組み～

現状・課題

- ① 成人期まで使える情報共有ツールが無い
- ② 所属機関や支援者が変わる際、必要な情報のアンマッチや情報不足により、支援の停滞が起こりがちである
- ③ 新たな支援者につながっても、障がい特性や支援経過の共有が不十分なため、当事者・家族と支援者間の信頼関係の形成に時間がかかる

めざす姿

- ① 当事者・保護者と支援者間、または医療、保育、福祉、教育、就労等の各分野の支援者間で、個々の発達障がいの特性や支援に関する情報、ニーズ等の共有がスムーズに行える「情報共有ツール」がある。
- ② 各分野の支援者間で、個々の発達障がいの特性や支援に関する情報共有がスムーズに行われ、ライフステージを通じた切れ目のない支援の引き継ぎが行える仕組みがある。

取組方針

- 【1】 ライフステージの移行時や支援機関(者)等がかかわる際の、支援の引き継ぎ状況、課題等について、自治体調査及び医療・福祉・教育・就労等の関係機関への聴取りを実施し、実態把握、要因分析を行う。
- 【2】 本市の現状について把握し、多角的な視点からの分析を行うため、本人・保護者のニーズを調査するとともに、各ライフステージで支援に携わる関係機関等に対して、意見を広く収集し、あるべき「情報共有ツール」の姿を分析する。
- 【3】 【1】及び【2】の結果をふまえ、共有すべき「情報」支援内容を整理し、「情報共有ツール」の内容を検討する。
地域の実情に応じた「切れ目のない支援の引継ぎのための仕組みづくり」を検討する。

取組み内容

【1】（平成29年度）：自治体調査の実施

【調査先】 ◆都道府県・政令市、医療・福祉・教育・就労等の関係機関。

【2】（平成30年度）：本人・保護者・関係機関等への調査の実施

【調査先】 ◆本人、保護者、保育所・幼稚園（公立・私立）、公立学校（小・中・高）、特別支援学校、専門学校、短大・大学、企業、障がい福祉サービス・障がい児支援事業所等、児童養護施設、医療機関、区、こども相談センター。

【3】（令和元・2年度）：情報共有ツールの内容の検討、支援の引き継ぎのための仕組みづくりの検討

【令和元年度】 ◆平成29・30年度に実施した調査結果の分析、情報共有ツールの内容及び普及啓発方法の検討。

【令和2年度】 ◆情報共有ツール「就学前編」を保護者等に試用してもらい、試用後に効果測定を実施。使用上の意見を分析し、より使いやすいものを作成。
◆就学時以降の移行期に有用な情報共有ツールを順次作成。 ◆情報共有ツールの普及啓発活動を実施。

【4】（令和3年度）：青年成人期向け情報共有ツールを活用した支援の仕組みづくりの検討

◆情報共有ツール「高校入学編」、「成人期編」等就学時以降の各ライフステージ毎に有用なツールを試用してもらい、試用後に効果測定を実施。
使用上の意見を分析し、より使いやすいものを作成。

◆各情報共有ツールの普及啓発活動を実施。

切れ目のない支援の引継ぎの仕組みづくり

～ 情報共有ツールを活用した仕組み～

～平成30年度本人・保護者・関係機関等への調査結果～

- 本人・保護者・関係機関等への調査は、複数の選択肢から当てはまるものを選ぶ「選択肢形式」と、思ったことや具体例を自由に記述する「自由記述形式」を併用して行った。
- 自由記述の回答には、より具体的な内容が記載されていたり、調査者が見落としていた視点について記載されていることから、選択肢形式の回答のみでは、より具体的ニーズが十分に把握できない可能性がある。
- 情報共有ツールの活用希望、事前に情報提供がなかった場合に困ったこと等、生活場面が新たな環境に移る時の引継ぎの際にどのような内容・事項等の情報があれば役立つと思うかについて選択肢形式で尋ねたところ、保護者・関係機関等とも回答に共通した傾向がみられた。
- そのため、情報共有ツールの主な利用者となる保護者を中心に、自由記述欄の回答分析を行い、情報共有ツールの内容検討の一助とする。

～支援の引継ぎのための仕組みづくり～

令和元年度では、調査結果を分析した次の5つの項目に基づき、情報共有ツールを活用した支援の引継ぎが必要な「対象時期」、情報共有ツールの書式や項目などの「内容」、作成にあたって保護者への「支援」、支援者への「普及」の検討を行った。

- ライフステージに応じた情報提供が必要
- 保護者と専門分野異なる支援者間での理解・共有の困難性
- 環境の変化の場面での困難性と情報共有ツールの必要性
- 情報共有ツールは啓発活動の機能もあわせ持つ
- 情報共有ツールの具体的な内容

5つの項目に基づき検討した結果、具体的な引継ぎの仕組みづくりの実現には、次の2つの項目が必要と考えられる。

- 情報共有ツールの作成
「就学」という幼児期から学齢期の移行期を想定し、発達障がい児の保護者が理解、作成しやすい形の情報共有ツールを作成
- 情報共有ツールの普及
情報共有ツールを広く市内の関係機関に知ってもらうために、支援者への普及活動を実施し、保護者と支援者が情報を共有できる状況を促していく

切れ目のない支援の引継ぎの仕組みづくり

～ 情報共有ツールを活用した仕組み～

主な意見

- ・プロフィールがそのまま個別教育支援計画に使えるので良い。
- ・情報共有ツールを使って、保護者と先生がやりとりして一緒に子どもについて考えていけることが重要であると思う。
- ・この情報ツールは、基本的に通常学級で過ごす、またはグレーゾーンの子どもたち対象に作成されているというイメージがある。
- ・普及啓発について：職員（教員・保育士）研修の中で注意喚起する機会があった方がよいと思う。
HPにアップする際、ツールとともに使い方の例が載っているマニュアルが必要であると思う。
- ・保護者の方たちには、わからなければ保育所園・幼稚園の先生にきいて一緒に作ることをすすめると良いと思う。
- ・保育所園・幼稚園の先生方に周知して、心配で相談してきた、もしくはグレーゾーンのお子さんや特徴があるがまだ気づいていない保護者の方に理解していただくツールに使っていただくとういと思う。
- ・保育所園の先生に、どんなことを情報提すとよいか、記入例の中でお知らせしておいた方がよいと思う。
- ・保育所園の先生や療育機関のコメント欄...いつ記載したのか日付を書く欄があったほうが良い。
- ・学校での過剰適応でしんどくなり不登校に至りそうなケースなどの場合、事前に先生に情報提供できる箇所があると良いと思う。
- ・医療情報を記入するところに、「てんかん」の有無を入れた方がよいと思う。
- ・「就学編」の対象：就学前から（年長）ときっちり記載されているほうがわかりやすい。

～ 情報共有ツール「就学前編」の完成 ～

情報共有ツール「就学前編」試用版について、保護者や支援者・関係機関等から意見を聴取したものを参考に、改善を図ったものを、エルムおおさかのホームページにアップロードした。情報共有ツール「就学前編」について、一定の完成はしたが、よりよい情報共有ツールとして保護者に活用してもらうため、今後も引き続き意見の聴取を行い、順次改善を図っていく。

これまで利用されてきた発達ノート「医療機関の記録」、「相談機関の記録」について、有用であるとの意見を受けて、情報共有ツールのオプションとして使用できるように、エルムおおさかのホームページにアップロードした。

【参考】

情報共有ツール「就学前編」、医療機関の記録、相談機関の記録

https://www.elmosaka.org/news_detail.php?id=126

切れ目のない支援の引継ぎの仕組みづくり

～ 情報共有ツールを活用した仕組み～

～ 情報共有ツール「高校入学編」、「大学入学編」の作成・試用 ～

思春期～成人期においても、スムーズに情報共有が行えるよう、情報共有ツール「高校入学編」、「大学入学編」を作成、使用する上での意見や感想を把握し、より使いやすいものへ改善するために、保護者や支援者、当事者に試用してもらい、試用後にアンケートを実施するとともに、その効果を測定する。

(令和3年1月末現在)

高校入学編の試用状況

【試用者】

エルムおおさか 個別相談ケース 保護者、大阪市内 親の会会員 保護者 等

【主な意見】

- ・書式にそって書き込むので記入しやすかった。担任教諭との懇談時、すでに口頭で伝えていた内容を確認するために使用した。
- ・感覚過敏で困っているケースが多いので、明記した項目を作してほしい。
- ・本人が自己認識しているケースもあるので、「本人記入(私は...)」「保護者記入」の両方の書式が必要と思われる。

大学入学編の試用状況

【試用者】

大学 支援センター(臨床心理士・社会福祉士・特別支援教育士・公認心理士 等)、通学中の当事者 等

【主な意見】

- ・困り事などの対応方法を明確にしたほうがよい。
- ・大学の誰が記入することを想定されているのかわかりにくい。
- ・何を書けばよいのかわかるように、具体的な指示を同じ紙に書いてほしい。
- ・量が多いのでもう少し少なくしてほしい。
- ・自由記述の項目が多い、チェック項目のほうがわかりやすい。

～ 情報共有ツール「中学入学編」、「就職編」、全情報共有ツール共通のマニュアルの作成 ～

これまでに作成した情報共有ツールに加えて「中学校入学編」「就職前編」の試用版の作成し、保護者や支援者、当事者に試用してもらい、意見や感想を聴取するとともに、よりよい情報共有ツールの作成を目指す。

また、これまで各情報共有ツールの試用の際に、記入方法などの方法を示すマニュアルの作成の必要があるとの意見が複数出ていることから、すべての情報共有ツールに共通する記入方法や使い方などをまとめたマニュアル作成を行う。

切れ目のない支援の引継ぎの仕組みづくり

～ 情報共有ツールを活用した仕組み～

～ 各種情報共有ツールの普及啓発 ～

作成した情報共有ツールを広く市内の関係機関、保護者に知ってもらうために、エルムおおさかのホームページに情報共有ツールをアップロードした。また、専門療育機関など、保護者向け研修会において保護者等に配布した。

併せて情報共有ツールの使用が必要となる保護者への普及啓発活動として、ペアレント・トレーニング講座への参加者などに周知し、保護者と支援者が情報を共有できる状況を促していく。

普及啓発の実施状況（令和3年度上半期、エルムおおさか主催講座の中で）

講座名等	日時	対象者	内容
ティーチャーズ・トレーニング連続講座 A・B	令和3年6月～	保育所保育士	連続講座の途中 または集合講座 の最後に紹介・ 配布
ペアレント・トレーニング連続講座 幼児	令和3年9月～	保護者	
ちょっと気になる子どもたちのからだ講座	令和3年9月14日	保護者・支援者	
【保護者対象】 第1回発達障がいの理解と支援(プラス)	令和3年9月24日	保護者	
幼児期ソーシャルスキル講座(3回連続)	令和3年9月～	保護者・支援者	

普及啓発にかかる今後の方向性

これまで同様、作成した各種情報共有ツールをエルムおおさかのホームページにアップロードし、普及啓発と共に使いやすいものとするために意見の聴取を行うとともに、ペアレント・トレーニング講座への参加者、専門療育機関など、保護者向け研修会において保護者等に配布、さらに各種情報共有ツールの記入方法と使い方を周知するため、保護者・支援機関向けの講習会の実施を検討するなどして、引き続き普及啓発を促していく。